

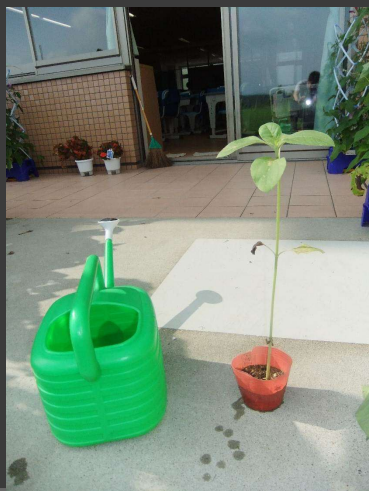
まず、はじめに・・・ 講師紹介・・・

今で言えば、まさに「発達障害」の児童である。
では、なぜ、ここまで私が成長してきたのか？

- 温かさと厳しさを両面もった**家庭**
- どんな時にも温かく受け入れてくれた**叔父さん**
- 個別に温かく指導してくれた**学校の先生方**
- 遊びも悪さも悩みも常に共有した**仲間**がいた
- たくさんの**経験から得た特技**
(サッカー・手品・ギター・スキー・船舶免許)
- ※好きなことや得意なことをたくさんつくる！！
- ※15時に下校では、将来就労が厳しい？

子どもは環境によって“成長”が変わる

◎種は同じロシアひまわり ◎植えた時期も同じ



“療育の質”によっても成長が大きく変わる

◎畑は同じでも肥料の与え方によって大きく違う



療育の“時期”によって成長が大きく変わる

◎後から肥料を与えても・・・与える時期が重要



特別支援が必要な子ども達の増加

■データ①

小中学校の通常学級における発達障害の子ども

全国 8.8% (前回 6.5%)

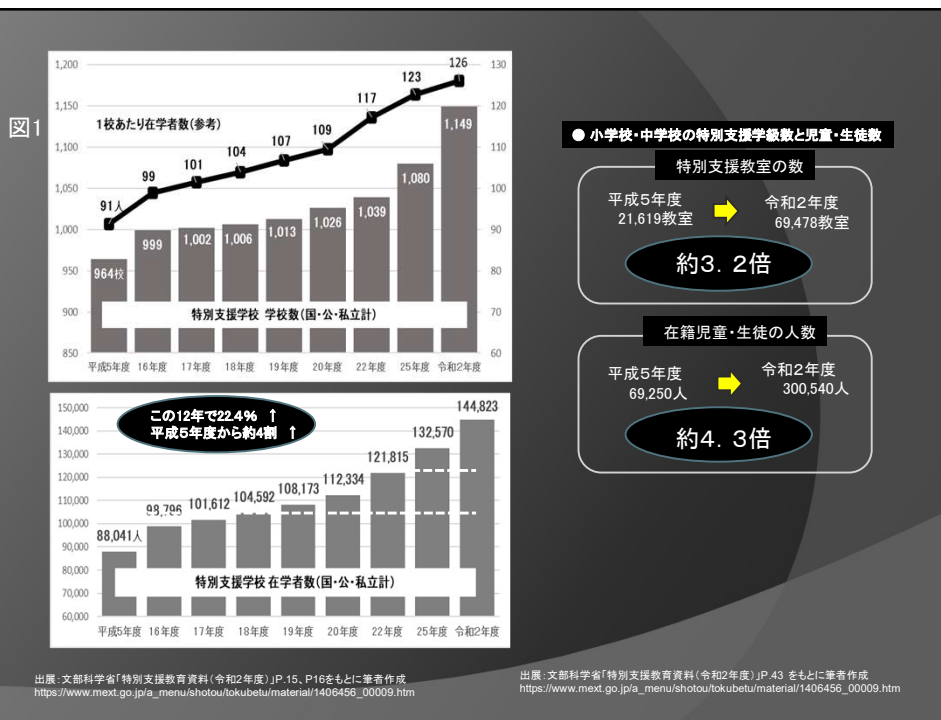
大幅に増加! コロナ2019流行が原因!

■データ②

小中学校の通常学級における発達障害の子ども

小学校 **77人に1人** 中学校 **20人に1人**

※更に、“保健室登校”などの予備軍も多数有



今日のお話の内容

(子どもたちのためになるお土産を少しでも多くご紹介したい。)

- 1 はじめに（特別支援を取り巻く現状）
- 2 親として何を行うと子どもたちは伸びるのか
- 3 学校や各種機関等との連携の在り方
- 4 放課後等デイサービス等の有効性と選び方

特別支援が必要な児童生徒は増加している

■通常の学級の中の発達障がいのある児童生徒

10年前6.5%→昨年8.8%

この10年で急増！ その訳は・・・？

■不登校の児童生徒

小学校：77人に1人

→中学校：20人に1人

この数値も急増！ その訳は・・・？

「困った子」は「困っている子」

「困った子だ！」と嘆いているのは、指導者の勝手な視点

☆実は一番困っているのは

その子ども本人

子どもの困り感に寄り添うこと

心理検査の活用

本来判定に使うためのものではない

☆K-ABC・K-ABC 2

☆田中ビネー

☆新版K式

☆WISCIV・WISCV

※なぜこの子は寝てるのか？→



個の知的特性等を把握し、その高低やバラツキからその子に合った支援を考える材料にするもの

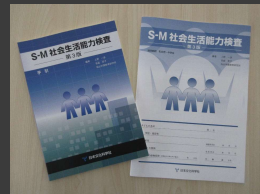
今日のお話の内容

(子どもたちのためになるお土産を少しでも多くご紹介したい。)

- 1 はじめに (特別支援を取り巻く現状)
- 2 親として何を行うと子どもたちは伸びるのか
- 3 学校や各種機関等との連携の在り方
- 4 放課後等デイサービス等の有効性と選び方

まずは、何を身につけることが重要なのか
S-M社会生活能力検査(129の項目)

- 1 身辺自立
- 2 移動
- 3 作業
- 4 コミュニケーション
- 5 集団参加
- 6 自己統制



☆その他ヴァインランドⅡやKIDS等

山内の経験から……

身についた適応能力で将来の就職先がわかる

・作業所(7歳の壁) 月収5千円～1万円程度

・B型事業所(9歳の壁)

月収が3万円～5万円程度

・A型事業所(12歳の壁)

月収が5万円～10万程度

・一般就労(15歳の壁)

月収が10万円以上

「A型以上を目指したい」となるとS-M社会生活能力の129項目がほぼできていないといけない

答えは簡単！！

子どもたちへのかかわり方の大原則

しかるより
ほめること

その理由は……

叱られる子は負のスパイラルに陥っている

できない→叱られる→自信がなくなる
→やらない→叱られる→ふてくされる
→怒鳴られる→逃げる（反抗する）
→もっともっと怒鳴られる

◆自己肯定感をなくしていく

「俺はどうせバカだから・・・」

「どうせ 私には できないし・・・」

「はじめから やらない方がいいや」

ほめること・・・ 当たり前で一番大切

そのポイントは以下の3点

☆この順番も大切

- 1 位置づけ
- 2 価値づけ
- 3 方向づけ

今回の講演会では……付け加えて

子どもを伸ばす親のかかわり方は
発展していく。

- 1 手をかける
- 2 目をかける
- 3 気を配る

※2と3を特に大切にする。

それでは……

問題になっていることに対して
どのように取り組めばよいか。

- 1 課題（問題点）を全て書き出す
- 2 取り組みやすい順にならべる
- 3 数個と期間を決めて取り組む

※本人が主体的に選択する

※関係諸機関と一緒に取り組む

ほめることでよいスパイラルに変えていく

できる→ほめられる→自信がつく→やる
→またほめられる→もっともっとやる
→どんどんできる→更にほめられる
→より高い目標に向かって取り組む

◆自己肯定感を高めていく

「ぼくは、計算は得意なんだ。」

「調理が好きでコックさんになりたい」

「勉強は苦手だけどやさしい子です」

叱ることも大切

ダメなことはダメ

社会で通用しないことは

子どものうちからしつけをする

◆スポーツの世界でもレッドカード

◆警察で言えば

- ・発達障がいに対して基本的に
減刑はありません

叱ることは、裏を返すと「ほめること」

- ①殴るなどの暴力は絶対許しません
→お手伝いなど相手にやさしい行動
- ②「殺す」「うざい」などの暴言もNG
→あいさつやお礼など温かい言葉
- ③3回同じことを注意されたら厳しく
→言われる前に自分で考えて行動する

今日のお話の内容
(子どもたちのためになるお土産を少しでも多くご紹介したい。)



- 1 はじめに（特別支援を取り巻く現状）
- 2 親として何を行うと子どもたちは伸びるのか
- 3 学校や各種機関等との連携の在り方
- 4 放課後等デイサービス等の有効性と選び方

知らなかったでは済まされない

学校をはじめ各種機関ではもっとよい
様々なサービスを受けることができる
しかし、向こうから教えてくれない！！
→よいサービスは保護者が請求する

なぜ、向こうから教えてくれないか
(※税金の控除も申告制ですね)
全員にそのサービスができないから
※公務員の最大の欠点の一つ！！

知らなかったでは済まされない

☆文句を言う前に情報を知って
「かしこい親」になりましょう

※「個別の支援計画の作成」

保護者と相談のもと学校が中心に
なって作成。様々な機関も巻き込んで、
有効な支援を書類の中に残して
いく。担当が変わっても残る。

今日のお話の内容

(子どもたちのためになるお土産を少しでも多くご紹介したい。)

- 1 はじめに (特別支援を取り巻く現状)
- 2 親として何を行うと子どもたちは伸びるのか
- 3 学校や各種機関等との連携の在り方
- 4 放課後等デイサービス等の有効性と選び方

昔は、預かってもらえるだけで大満足

現在は

身近で、よりよいサービスを受ける時代

※参加人数が増えるとやりたい活動が制限される
仲間関係のトラブルも当然増える

個別の支援が必要な子は、少人数の施設が有効!

※単なる預かりから学校等と連携をとった療育へ

→有効な支援を共有し、子どもの支援に生かす

(個別の支援計画策定も)

※社会性を身につけ、就労まで見すえた長い支援

※保護者自身がゆとりをもつことで子どもへの接し

方が変わる (保護者がもっと楽しみましょう。)

送迎のサービス等も充実

よい療育施設には3つのポイントがある

- 1 「どんな資格を持った指導員がいますか？」
- 2 「何ができますか？」 「何がありますか？」
- 3 「どんなことを教えてもらえますか？」

- 1 人・・・資格保有者・優秀な指導員・人柄
- 2 物・・・楽しく力のつく遊具・教具・教材
- 3 こと・・・施設で何を学ぶことができるか
施設で何ができるようになるのか

☆保護者ではない大人が支援することが大切！
なぜ保護者ではダメなのか？

☆お母さんと一緒→お母さんじゃない人と一緒へ

『活動あって学び無し』ではいけません
些細な活動もねらいをもって意図的に実践！！



PDCAのサイクルで子どもを成長させましょう！
(計画)→(実行)→(評価)→(改善)

ご清聴ありがとうございました。